

事業コード	H17-建-継-19		区 分	国庫補助 県単独
事業名	通常砂防事業		部局課室名	建設交通部 砂防課
事業種別	砂防えん堤工		班 名	砂防班 (tel) 018-860-2532
路線名等	沢内川		担当課長名	河川砂防課長 佐々木 卓郎
箇所名	鹿角市八幡平沢内		担当者名	主幹(兼)班長 小林 真一
総合計画との関連	政策コード	C	政策名	快適で安全な生活を支える環境づくり
	施策コード	02	施策名	災害に強い県土づくり
	指標コード	05	施策目標(指標)名	土砂災害危険箇所整備率

1. 事業の概要

事業期間	H12 ~ H18 (7年)		総事業費	7.9億円	国庫補助率	1/2	
事業規模	砂防えん堤1基						
事業の立案に至る背景	当渓流は、鹿角市八幡平に位置し、保全対象として人家4戸・国道等を抱える渓流である。平成11年5月には当渓流の上流部で大規模な地すべりが発生している。また、流域内は溪岸侵食や山腹崩壊が多く、倒木も認められており、再度集中豪雨が沖田場合、堆積土砂が土石流化する恐れがあるため、人家はもちろんのこと生活に密着した道路が被災することになる。こうしたことから、砂防施設整備をもって住民の生命・財産を保全するため、平成18年度の完成を目指すものである。						
事業目的	【主たる目的】 土石流を砂防えん堤で捕捉し、下流域に暮らす住民の生命・財産を守る。 【保全対象】 人家4戸、国道600m、市道420m						
事業費内訳 事業内容 (単位:千円)		計 画 時	評 価 時	増 減	理 由 等		
	事業費	760,300	789,700	29,400			
	経費内訳	工事費	556,300	528,032	-28,268	詳細設計による本工事の確定	
		用補費	173,600	231,057	57,457	詳細設計による用地補償の確定	
		その他	30,400	30,611	211		
	財源内訳	国庫補助	380,150	394,850	14,700		
		県債	342,000	355,000	13,000		
その他		0	0	0			
一般財源		38,150	39,850	1,700			
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・本工事 ・詳細測量設計 ・用地補償 	<ul style="list-style-type: none"> ・本工事 ・詳細測量設計 ・用地補償 					
事業の進捗状況	・平成16年度末時点で、全体のうち77%が完成しており、概ね計画通りに進捗している。引き続き砂防えん堤工を施工し、平成18年度に完成する見込みである。						
事業推進上の課題	・特になし						
関連する計画等	・上位計画である「あきた21総合計画」第2期実施計画において、「災害に強い県土づくり」の施策として位置付けられている。						
情勢の変化及び長期継続の理由	・情勢の変化としては、近年、全国各地において集中豪雨等に伴う土砂災害が発生していることを鑑み、ハード・ソフト一体となった砂防施設整備が急務となっている。 ・砂防えん堤は、高さ・幅共に規模が大きいため、数年にわたって段階的に立ち上げていく必要があるため長期を要するが、早期に少しでも多くの効果が発現できるよう配慮して立ち上げていく。						
事業効率把握の手法及び効果	指標名	土砂災害危険箇所整備率					
	指標式	概成箇所数 / 危険箇所数					
	指標の種類	成果指標	業績指標	低減指標の有無	有 無		
	目標値 a	24.9 %		データ等の出典	危険箇所調査		
	実績値 b	21.4 %					
達成率 b/a	85.9 %		把握の時期	平成17年3月			

前回評価結果等	選定または継続 改善 見直し 保留または中止
	指摘事項
	-
	指摘事項への対応
	-

2. 所管課の自己評価

観 点	評 価 の 内 容 (特 記 事 項)	評 価 点
必 要 性	<ul style="list-style-type: none"> ・砂防えん堤は、土石流の発生・流下を抑制する最も有効な手段である。 ・当溪流は、地元住民から対策を要望されている。 ・砂防法第5条により工事の施工は都道県知事が行うものと位置付けられている。 	20点
緊 急 性	<ul style="list-style-type: none"> ・着手以降、砂防施設の整備が進められているが、流域内からの土砂流出は顕著であり、堆積した土砂の土石流化が懸念されているため、早急な砂防施設整備が必要である。 	5点
有 効 性	<ul style="list-style-type: none"> ・施設を整備することにより、土砂災害から人命や財産が守られ、安全な区域が創造される。 	10点
効 率 性	<ul style="list-style-type: none"> ・事業の費用便益費は1.10であり、効率性は高い。 総費用の現在価値化 7.83億円 総便益の現在価値化 8.58億円 ・事業費は、現場発生材の有効利用等、各段階においてコスト縮減の検討を行う。 	30点
熟 度	<ul style="list-style-type: none"> ・地元住民及び関係自治体に関連する課題はなく、事業に対しても協力的である。 	20点
判 定	ランク () 全ての項目において、評価点が高く、住民の生命・財産を保全するうえでも有効な事業箇所であり、実施すべきと考える。	85点
総 合 評 価	継続 改善して継続 見直し 中止 事業継続は妥当である。	

3. 評価結果の当該事業への反映状況等(対応方針)

引き続きコスト縮減に留意しながら、事業を継続する。

4. 公共事業評価専門委員会意見

県の総合評価を可とする。

評価種別 継続箇所評価
適用基準名 砂防課所管事業

事業コード(H17-建-継-19)
箇所名 (鹿角市八幡平沢内)

1. 評価内訳

観点	評価項目 細別	評価基準	配点	評価点	摘要
必要性	県民のニーズ				
	県民のニーズの変化	変化なしまたは増加している	20	20	
		若干低下している	10		
		非常に低下している	0		
	計		20	20	
緊急性	危険度				
	斜面、溪流等の危険度	変化なしまたは増大している	10	5	崩壊進行、地下水位上昇等 地下水位の低下、残斜面の
		若干低下している	5		
		非常に低下している	0		
	計		10	5	
有効性	災害発生時の影響				
	保全対象数の変化	変化なしまたは増加している	10	10	
		若干減少している(80%以上)	5		
		非常に減少している(80%未満)	0		
	計		10	10	
効率性	事業の効率性・進捗状況				
	費用便益分析(B/C)	2.0以上	10	5	
		1.0以上2.0未満	5		
		1.0未満	0		
	事業の進捗状況	計画どおり進捗している(100%以上)	10	5	
		概ね計画どおり進捗している(70%以上100%未満)	5		
		計画より遅れている(70%未満)	0		
	対策工法、工事に関連する課題	課題なし又は解決済みで順調な進捗が見込まれる	10	10	
		課題はほぼ解決済みであり、進捗に大きな影響はない	5		
		課題はあるが、解決する見込みである	3		
コスト縮減計画	課題解決の見込みなし又は事業が停滞している	0	10		
	具体的なコスト縮減計画がある	10			
	具体的な計画はないが、検討中である	5			
	計		40	30	
熟度	地元の協力状況				
	地元住民・関係自治体等に関連する課題	課題なし又は解決済みで順調な進捗が見込まれる	20	20	
		課題はほぼ解決済みであり、進捗に大きな影響はない	10		
		課題はあるが、解決する見込みである	5		
	計		20	20	
合計			100	85	

2. 判定

ランク	判定内容	配点	判定	摘要
	優先度がかなり高い	80点以上		
	優先度が高い	60点以上～80点未満		
	優先度が低い	60点未満		